
あのヨとこのヨ

宇野直人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あのヨとこのヨ

【Nコード】

N9600Q

【作者名】

宇野直人

【あらすじ】

とくにないでいづるよ

はやいもので死んでから一年経った。

死後の世界にきてまず驚いたことは天国や地獄が一切ないということだった。神さまと名乗るおっさんに、実に事務的な口調で「君は死にました。次の転生先が決まるまでこの家に住んでね」と話され、アパートの一角に住むことになった。なんだか想像していた死後の世界とはまるで違っていたので、私は死んだことや目の前のおっさんのことなど理解するのに時間がかかった。

次に驚いたことはあの世には時間という概念があることだった。あの世にも四季があり、季節は瞬く間に変わっていく。あの世での時間的概念にたいして私は未だ違和感を覚えているが、これは生まれ変わるときに時間の感覚を残しておかなければならないという神さまの方針だった。季節は今冬で、私はこうやってこたつでみかんを食べている。

しかしこれでは死んだということがまるで実感できない。ということで用意されているのが、「向こう側の世界」に一方的に干渉できるというシステムだった。誰かの夢に出てもいいし、幽霊となつて出ることも可能だそうだ。でも許可が色々あつて私はめんどくさくてやっていない。

私がやっていことと言えば、テレビで「向こう側」のニュースを見たり、知人をのぞきみするということだ。

私は今日もある男性をのぞいている。彼が私を殺した人物らしい。「らしい」というのは、実は死んだ理由が分からなかったのだ。私が殺したのは向こう側のテレビのニュースで大々的に取り上げられ、それで知ったのだ。

彼を見ていると、おかしいことが出てきた。最初のぞきはじめてころは何ともなかったが、日が経つにつれ辺りをキョロキョロした。次第に寝ている時はうなされはじめ、顔がやつれてきた。今

では怯えたような表情して、頭を抱え込むのだった。

自分を殺した人物なのだろうが、なんだか心配になってくる。だから私は一日のうちに彼を見ることがもっとも多い。

ついに彼は首をつって自殺した。遺書を残していたのでのぞく。どうやら精神的にまいっていたようだ。いつも殺してしまった私に見られているような気がして、精神的に病んでいったようだ。私は殺された感覚がないの恨んだりしているわけではないし、こっちの生活もなんだかんだで楽しくやっているのに。もともとこの人は、心優しい人だったのかもしれない。

玄関のチャイムが鳴った。私はこたつから出て、玄関を開ける。「隣に引っ越してきました者です。つい先ほど自殺した者ですが…」

…」

(後書き)

なんでも言ってくれるとうれしいですヨ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9600q/>

あのヨとこのヨ

2011年10月8日13時23分発行